

「裏磐梯紀行(15)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

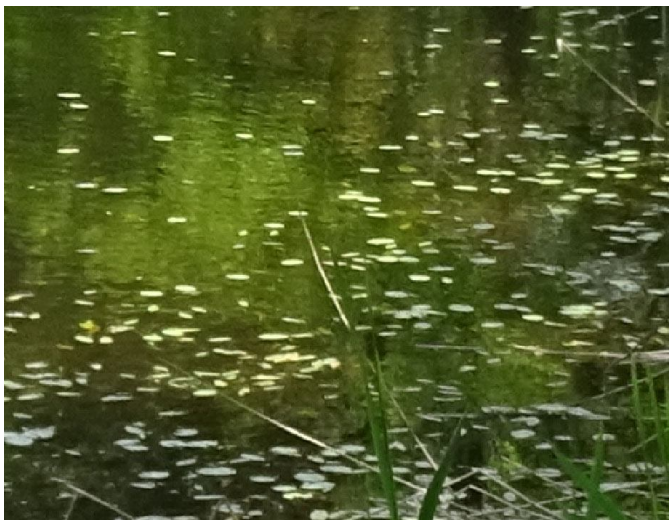
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

桧原湖の東側には、磐梯山の山体崩壊による「流れ山地形」でできた、大小多くの沼が点在している。



この「姫沼」は、特に美しい。航空写真で見ると「勾玉型」なのだが、湖畔に立ってもその形状は実感できない。湖面には丸い葉の植物がたくさん浮いている。



このような構図で写真にすると、まるでモネの「睡蓮」のようだ。しかしこのあたりの沼に自生しているのは、睡蓮(ヒツジグサ)ではなく、主にジュンサイ(蓴菜)である。ジュンサイも睡蓮に近い仲間、地下茎は沼底の泥の中にあり、そこから茎を伸ばして葉を浮かべる。ジュンサイは食用になるが、食用にするのは地下茎(蓮根)ではなく、若い葉である。ジュンサイの若い葉は、ゼリー状の膜(ガラクトマンナン)で覆われていて、その状態で葉と一緒に収穫されるのだ。このあたりでも小規模な採取が行われている。



伝統的なジュンサイ採取は、沼の上に「たらい舟」を浮かべて行う。裏磐梯では、観光客に体験させてくれる場所もあるようだ。ジュンサイはこのように、瓶詰めで売られていることが多い。中に入っているのは、ゼリー状の膜につつまれた、まだ開いていないジュンサイの葉である。収穫量が少なく、手間もかかるので決して安いものではなく、小瓶でも千円以上する。酢の物や、吸い物の具にするのが普通だが、味よりも食感や珍しさを楽しむといったほうが良さそうだ。裏磐梯のおみやげとしては、喜ばれるだろう。



姫沼の湖畔で見かけた、イトトンボの仲間。人を恐れず、まるで「撮ってください」と言わんばかりに、葉の上でじっとしていた。イトトンボは種類が多いので、私には同定できなかった。



ヤマアジサイもよく見かけた。ガクアジサイに似ているが、平地では稀で、山地の水辺に多い。